

The Number November of Library Message 2023

Library Message

11月号



図書委員推薦図書

Recommended Reading

44・54・42HR

『最後のトリック』

深水 黎一郎 || 著 河出文庫

スランプ中の作家の元に、ある男からミステリー界最後の不可能トリックのアイ

デアを2億円で買って欲しいという手紙が届いた。困惑する作家に、男は「命と引き換えにしても惜しくはないものだ」と訴える。男が語る「最後のトリック」とは何なのか？この本を閉じたとき、読者のあなたは必ず「犯人は自分だ」と思うはず！

『オーダーメイド殺人クラブ』

辻村 深月 || 著 集英社

教室ヒエラルキー上位の「リア充」(=現実リアルの生活が充実している)女子グループに属している小林アン。「昆虫系」(イケてないキャラモノ男子)の徳川勝利。一見共通点がないように見える二人だったが…。家や教室に絶望感を抱くアンは、自分と共通する美意識(センス)を感じる徳川に「私を殺して」と衝撃的に依頼する。二人が作る事件の結末とは一！ぜひ読んでみてください。



※本の返却期限が過ぎている人は、すぐに返却してください！

『実践行動経済学』

リヤード・セイラー || 著 日経BP社

あなたは、行動経済学を知っていますか？

人々の行動を経済学に適用させて、細かく分析していく学問です。あなたのその行動はすべて企業の思惑かもしれないのです。新しい時代を築く行動経済に少し触れてみてはどうでしょうか？

さあ、実践的な経済学を！！



『響—HIBIKI—』

柳本 光晴 || 著 小学館

主人公は集団生活に、かなり問題のある高校1年生の女の子“響”。彼女が出版社に新人賞応募原稿を送るところから始まる学園生活と出版業界のお話です。ぶっ飛んだ天才少女が世間と繋がっていられるのは、いつも傍らにいてくれる幼なじみの男の子の存在が大きいです。彼のフォローのおかげで、この物語全体の関係性が成り立っているというところに注目して読んでみてください。世界はいろんなバランスで出来ていて面白いと感じられる作品です。

『推し、燃ゆ』

宇佐見 りん || 著 河出書房新社

突然ですが、あなたに「推し」という存在はありますか。世界中が新型コロナウイルス禍の中でいろいろなものがリモートになり、家に居る機会が増えたとき、あなたにも「推し」という存在ができたのではないのでしょうか。現代を生きる私たちのような若い人たちは主人公のように「推し」を中心に生きている人もいます。この小説は、もしいきなり自分の「推し」がいなくなったら、という物語です。もし、「推し」がいなくても共感できるので、ぜひ読んでみてください。